

Life field of Creation

概念デザイン特別講座；泰山'sエッセイ

概念デザイン・メソドロジーの深化と実践

～経営力・企画力・デザイン力のコンピタンスを高めるために～

123コンセプト・パッケージ法による概念分析；青学、その強さの秘密
4連覇！、そして敗北！、また復活！…その概念構造を読み解く

2020年度版 概念デザイン研究所 山口泰幸

Email taizan@gainendesign.com HP <http://www.gainendesign.com/>

Copyright © 2020by Yamaguchi Taikoh 許可なく複製を禁じます。

2018年正月、青山学院大学陸上部が箱根駅伝を制して4年目を迎え、果たして、期待値通りに同部は原普（はらすすむ）監督の指導の下、成功裏に4連覇を成し遂げ、注目の的になりました。

しかし翌年の2019年には僅差で東海大学に敗れ、5連覇の夢は露と消えました。ただし、成績的には第二位で、遜色は無いのだが、なにせ巷の大方の予想は連覇であったので、世間様も、青学の陸上部員も、そして監督自身も落ち込み様はむべなるかなであったわけです。

2020年の箱根駅伝では、その反省と反骨精神により、さらに選りすぐれた戦略の設定によって、ダントツで再び総合優勝を手にしました。この流れを、概念デザイン・メソドロジーの概念分析手法で追ってみましょう。なぜ、勝利し、破れ、そして復活したかが構造的にしっかりと概観できるでしょう。分析には『123CP法』という手法を用い、コンセプト・パッケージから逐一上記3段階の戦略の概念構造を検証しています。

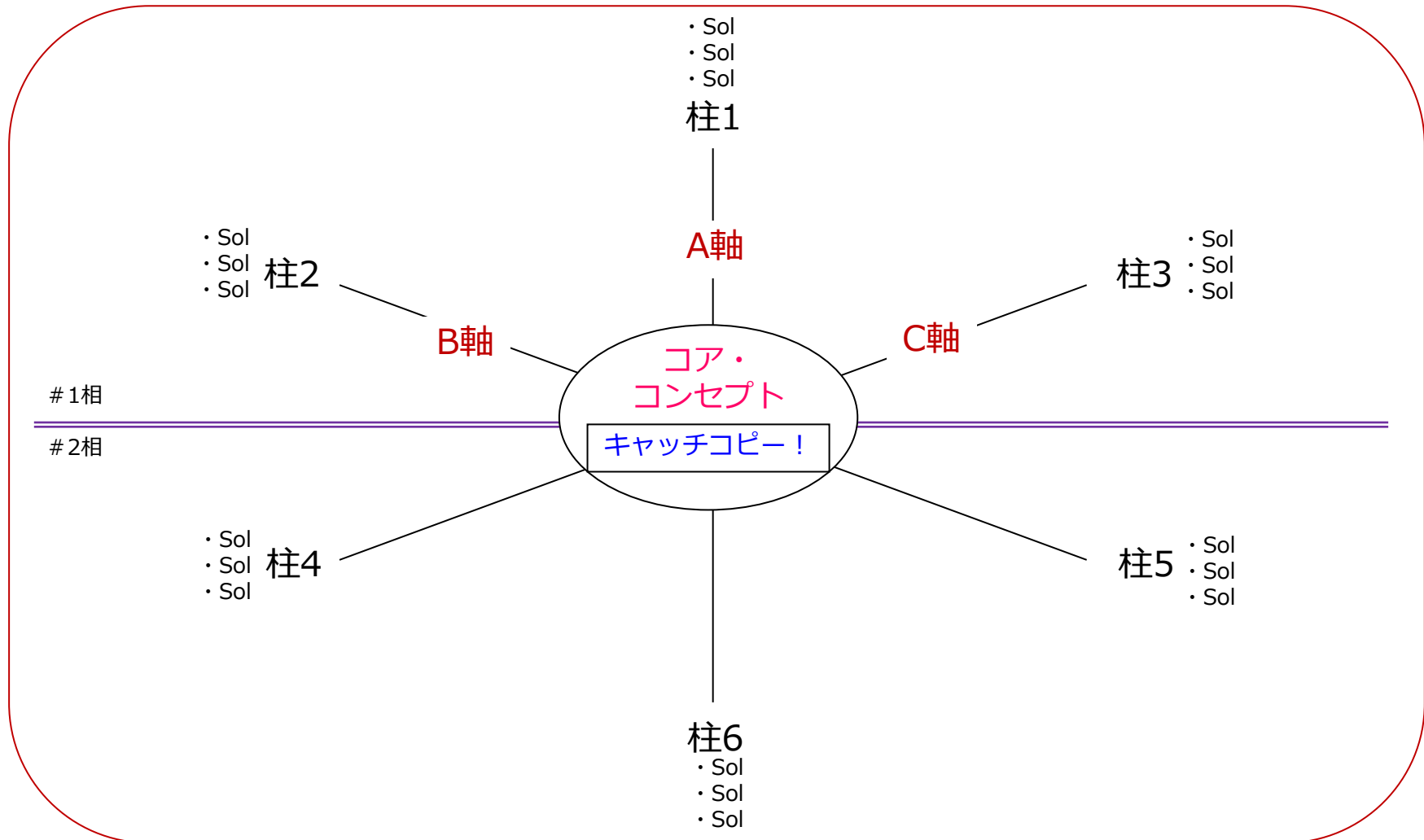
この分析は表出している最低限度の情報から概念構造を構築し検討するもので、類推や予想は排除しています。また、原監督の経歴や実績などはここでは敢えて取り上げてはいません。その辺は他の解説書にお任せします。

以下、次の順で解説をして行きます。

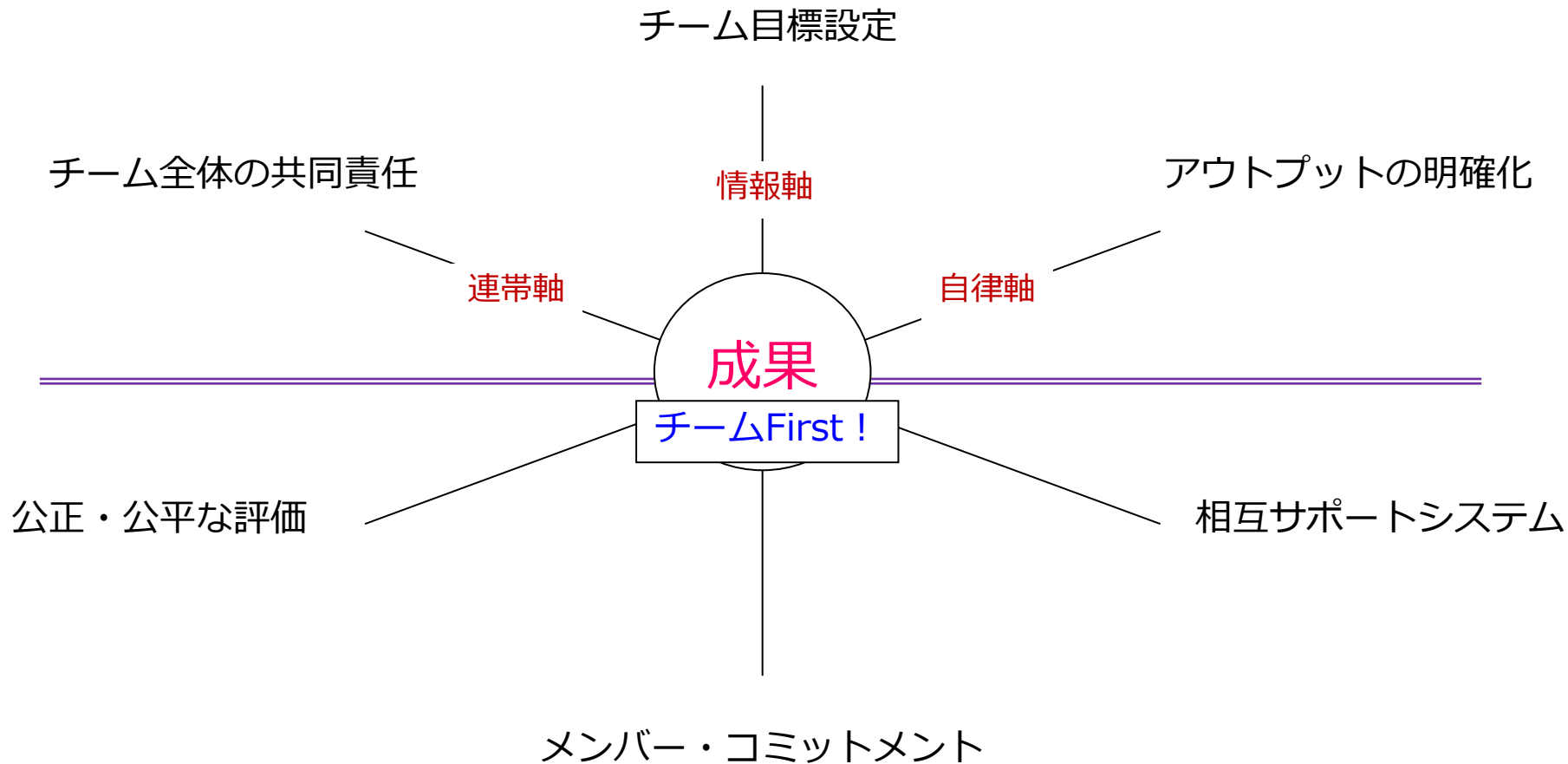
- 1 『123CP法』の概説
- 2 勝てるチームの概念構造と、優れたリーダーシップ
- 3 青学4連覇時の戦略とは…マーケティング論から考える
- 4 明大ラグビー部の勝利の構造
- 5 2019年敗北の理由
- 6 2020年再勝利のポイント
- 7 まとめ



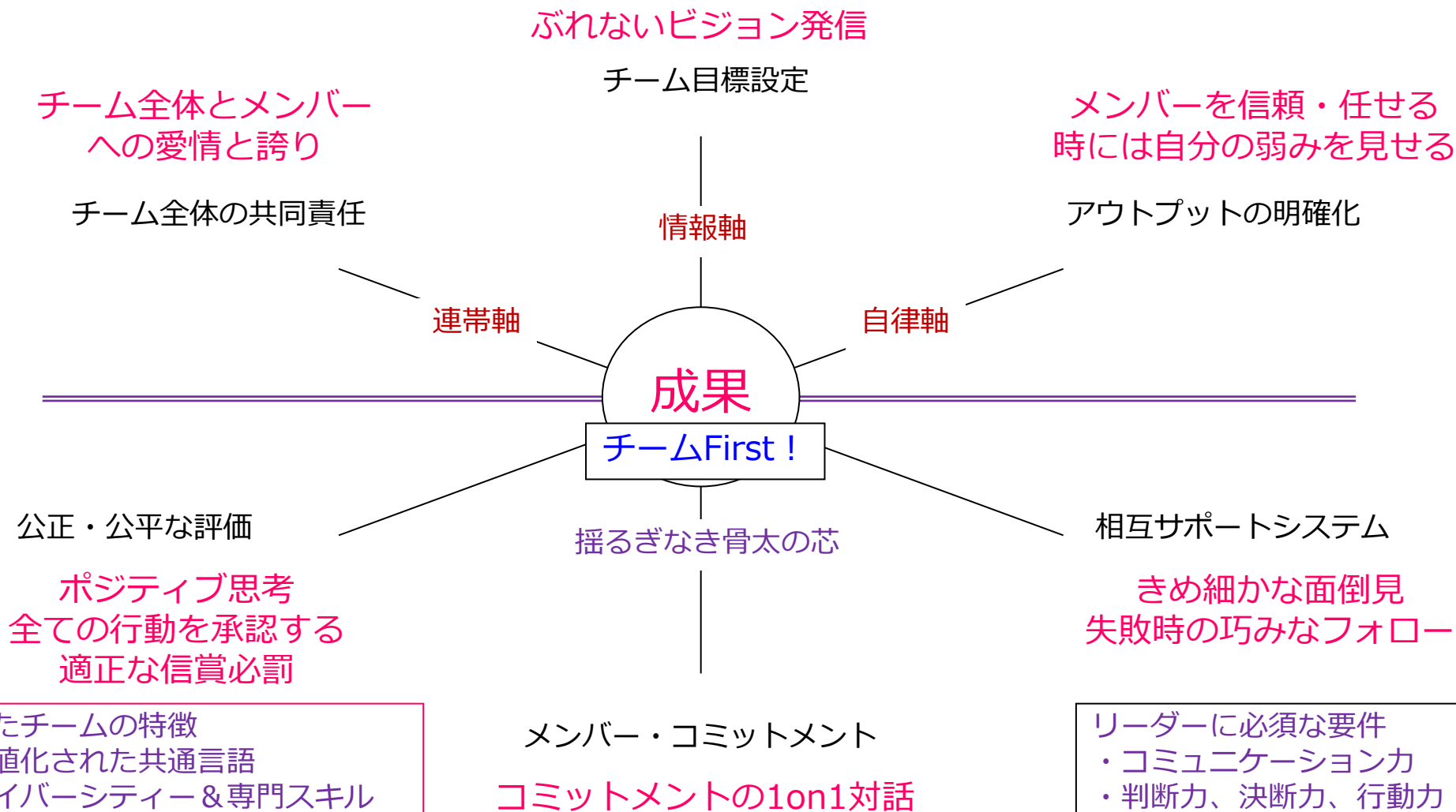
- ※ CP法=コンセプト・パッケージ法；概念デザイン・メソドロジーの主要ツールのひとつ
- ※ 123 ⇒ 1つのコア・コンセプト、2つの相、3つの軸
- ※ コンセプト・パッケージの構成要素
；「コア・コンセプト」「キャッチコピー」「複数軸」「柱群」「ソリューション群」
- ※ CP:コンセプト・パッケージは対象概念を認識し戦略を構築する最も基本的な概念構造化仮説



※ 優れたチームの概念構造化仮説は、概念デザイン研究所の研究結果から下記のように設定できます。



※ 優れたチームを率いるリーダーの要件は、概念デザイン研究所の研究結果から下記の通りとなります。



優れたチームの特徴

- * 数値化された共通言語
- * ダイバーシティ&専門スキル
- * チームの勝利こそ最高の喜び
- * その一員であることへのプライド
- * 優れたリーダーが育っている

リーダーに必須な要件

- ・コミュニケーション力
- ・判断力、決断力、行動力
- ・リスクマネジメント力
- ・ロジカル・シンキング力
- ・バランス感覚



※ 青学4連覇2018年の戦略は勝てるチームとして、戦略がしっかりと構築されていた！…といえます。



共同寮生活
監督と選手間の近い距離

情報共有

情報軸

強み増進の自主練

自律軸

青学トレ；体幹トレ（ケガ減少）
独創的な練習コース

チーム志向

連帯軸

チームの勝利が全員の勝利
レギュラー獲得競争あり
4年生でも出場不可のことも

勝利

僕たちだってやれる！

相互サポート

脱落者はレギュラーをサポート

個別目標設定

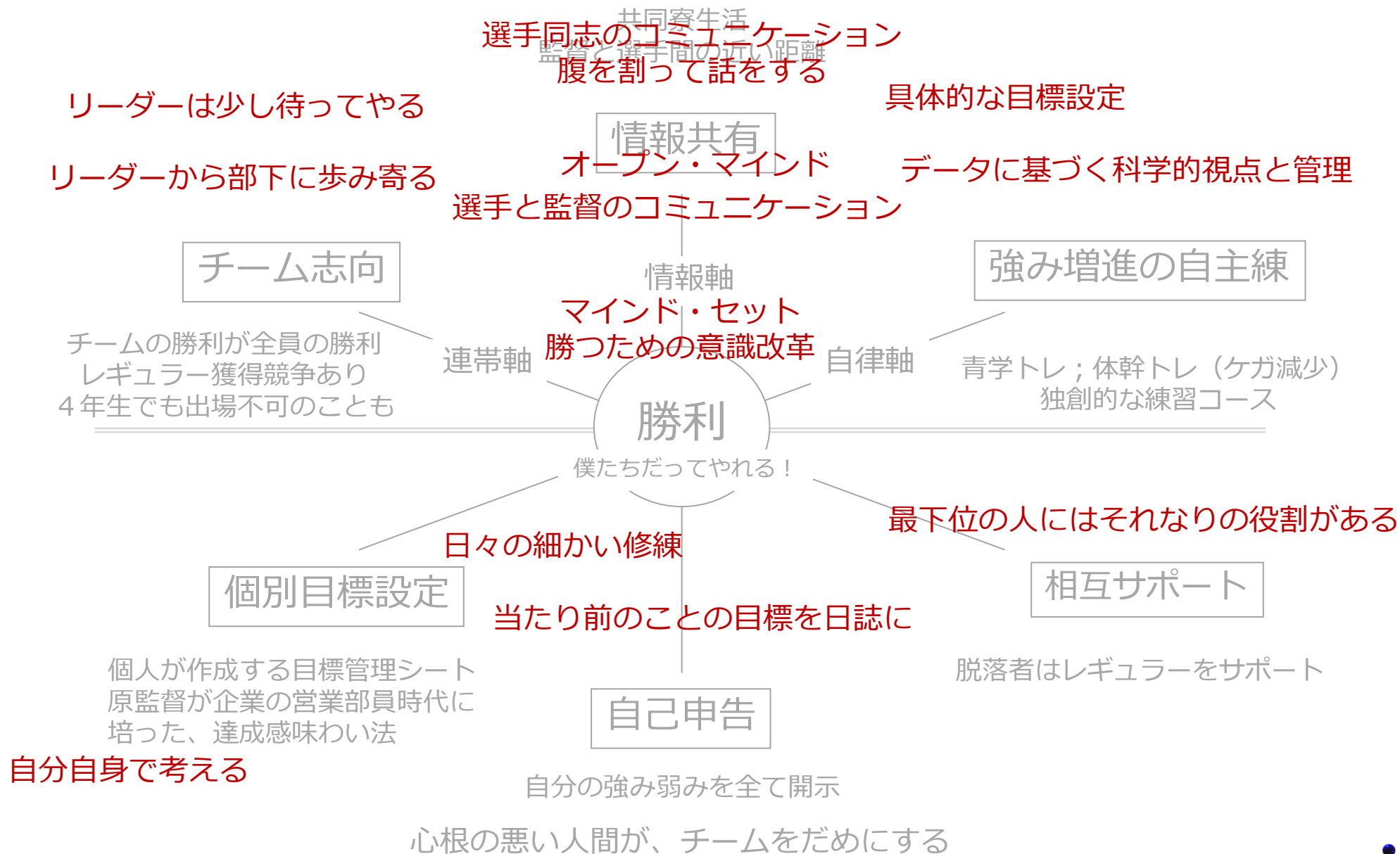
個人が作成する目標管理シート
原監督が企業の営業部員時代に
培った、達成感味わい法

自己申告

自分の強み弱みを全て開示
心根の悪い人間が、チームをだめにする



※明治大学ラグビー部も同様の勝てるチーム戦略を形成していました！下記朱文字：2018



※ 青学もやっている『褒めて育てる』活性化術の極意とは！

「ありがとう」と、感謝されれば、 やる気出る。

「いいね」って、褒められれば、 やる気出る。

「うまくいくよ」と、励まされれば、 やる気出る。

「笑顔でおはよう」で、こちらも笑顔で挨拶、 やる気出る。

「おもしろいね」と、認められれば、 やる気出る。

やる気が出れば ⇒ 結果は自然についてくる！！！！

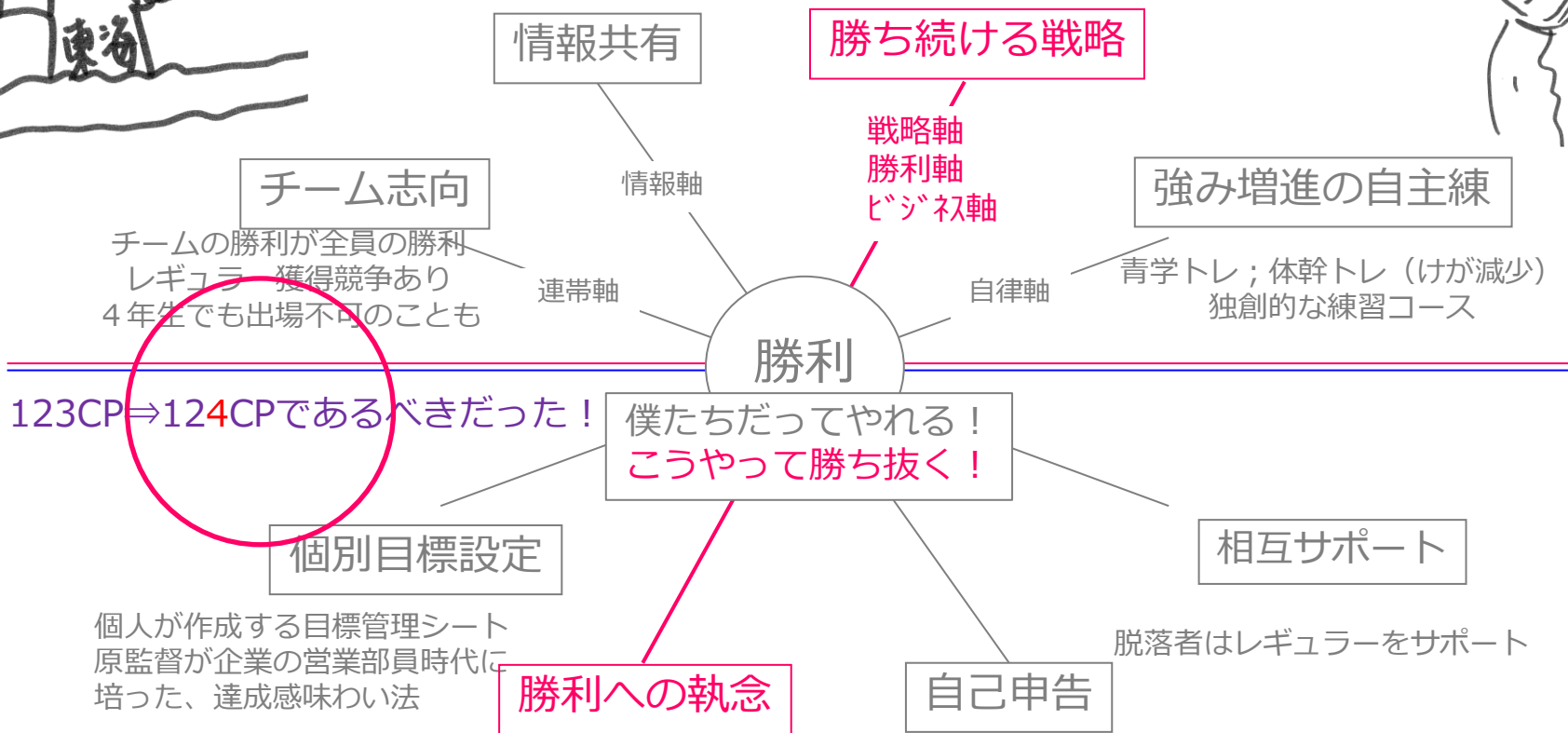


- ※ 4連覇戦略の踏襲が基本だった。；継続的な戦略の進化が必要だったのに！
- ※ 他校が意識していることを考えれば、『勝利軸』が不足していたようだ！；3軸+1軸
- ※ 「勝ち続ける戦略」と「勝利への執念」の2柱が不足し、甘さが露呈してしまった！

※もはや挑戦者ではない！
 ※常勝のプロで無ければならぬ！

共同寮生活
 監督と選手間の近い距離

+アルファの武器



冷徹なる差配と実力主義 自分の強み弱みを全て開示
 楽しみなど超越しろ！

※勝てる武器と戦略を具備して、必ず勝て！



※ それは前ページの勝利のための基本戦略が完璧に遂行できたからにほかなりません！

※もはや挑戦者ではない！
※常勝のプロで無ければならぬ！



共同寮生活
監督と選手間の近い距離

+アルファの武器

情報共有

勝ち続ける戦略

チーム志向

戦略軸
勝利軸
ビジネス軸

強み増進の自主練

チームの勝利が全員の勝利
レギュラー獲得競争あり
4年生でも出場不可のことも

連帯軸

勝利

自律軸

青学トレ；体幹トレ（けが減少）
独創的な練習コース

123CP⇒124CPであるべきだった！
⇒2020はそうした！

戦略軸

僕たちだってやれる！
こうやって勝ち抜く！
勝つための非情さと泥臭さ！

Catchcopyの追加
柱の再確認

個別目標設定

相互サポート

脱落者はレギュラーをサポート

個人が作成する目標管理シート
原監督が企業の営業部員時代に
培った、達成感味わい法

勝利への執念

自己申告

冷徹なる差配と実力主義
楽しみなど超越しろ！

自分の強み弱みを全て開示

※勝てる武器と戦略を具備して、必ず勝て！



- ※1 競争戦略の概念構造が適確でバランスがとれていれば、勝利に近づく。
 - ・マーケティングでいえばそういう商品はまず売れる。
 - ・勝ちたければ、まず2018年青学勝利時の基本戦略概念構造を学ぶ（真似る）こと。
- ※2 青学にとって最も重要なことは敗退時の戦略概念分析である。2019年の猛省。
- ※3 青学が今後更に勝利を続けるには、2020年勝利時の概念構造のソリューション部分の強化が重要。
- ※4 他の大学が青学に勝利するには、※3の青学戦略を超えるバランスのとれた勝利のための概念構造を構築することが肝要。124CP（4軸）。
- ※5 各大学には固有の文化や伝統があるので、単純に青学戦略を真似るだけでは破綻する可能性がある。固有の文化・伝統を十分に組み込んだ戦略構築が近道となる。無理強い破綻し易い。
- ※6 コンセプト・パッケージにおいて5軸以上設定することはあまりお奨めできない。それは全体のバランスが取りにくいことと、増えた柱群の個別ソリューションを精確に実行することが難しいから。
- ※7 短兵急には事は成就しないことを肝に銘じ、少なくとも3年越し、できれば5年がかりで戦略をじわじわと仕込むのが肝要。そのときに大切なことは指導者のブレない継続的な指針の表明である。

2021年1月の箱根駅伝は『高度な戦略戦』となることは必至でしょう。武力もさることながら、知力が決め手になるでしょう。果たして、どの知将が諸葛孔明となるのでしょうか。楽しみにしております。^^)y

文責 概念デザイン研究所 所長 山口泰幸 taizan@gainendesign.com taiz3817@gmail.com
URL <http://www.gainendesign.com/>

